

## 栗駒山の火山活動解説資料（平成 28 年 2 月）

仙台管区気象台  
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図 1）

大柳に設置している遠望カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

#### ・地震や微動の発生状況（図 2、図 3）

火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。

なお、栗駒山周辺では、「平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震」の余震域内で地震活動が続いています。

#### ・地殻変動の状況（図 4、図 6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

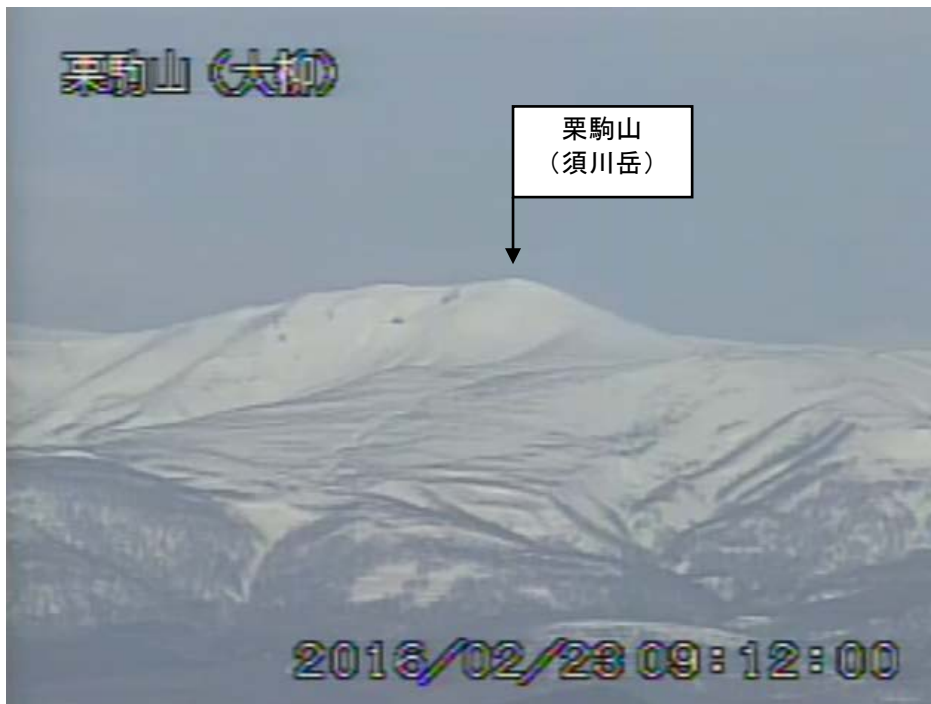


図 1 栗駒山 山頂周辺の状況（2月23日）

・大柳（山頂の南東約 20km）に設置している遠望カメラの映像です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成28年3月分）は平成28年4月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。

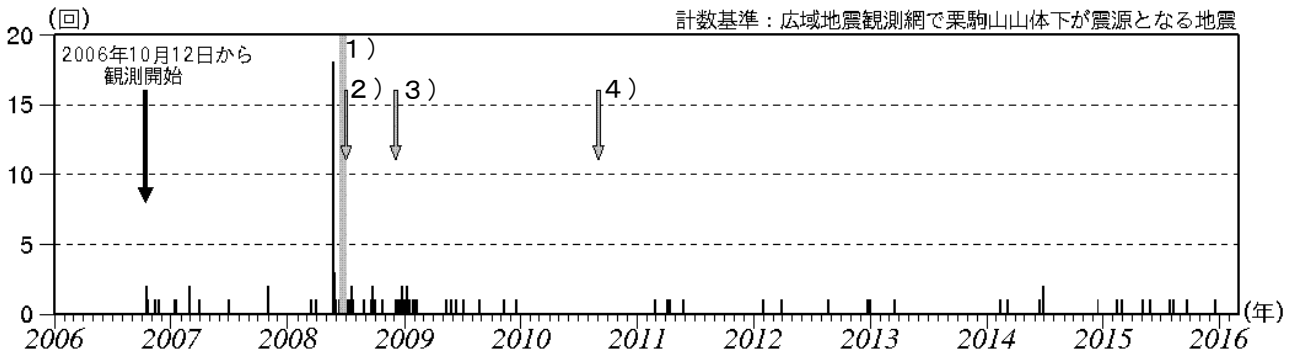


図2 栗駒山 日別地震回数（2006年10月～2016年2月）

- ・2006年10月12日から旧耕英観測点（山頂から南東約4km）で観測を開始しました。
- 1) 2008年6月14日から7月2日18時（図の灰色部分）まで「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」の影響により観測不能となっていました。
- 2) 2008年7月2日18時から小安（おやす）観測点（山頂から北西約10km）で監視を開始しました。
- 3) 2008年12月4日から旧耕英観測点で観測を再開しました。
- 4) 2010年9月1日から耕英観測点（山頂から南東約4km、旧耕英観測点とほぼ同じ場所）で観測を開始しました。

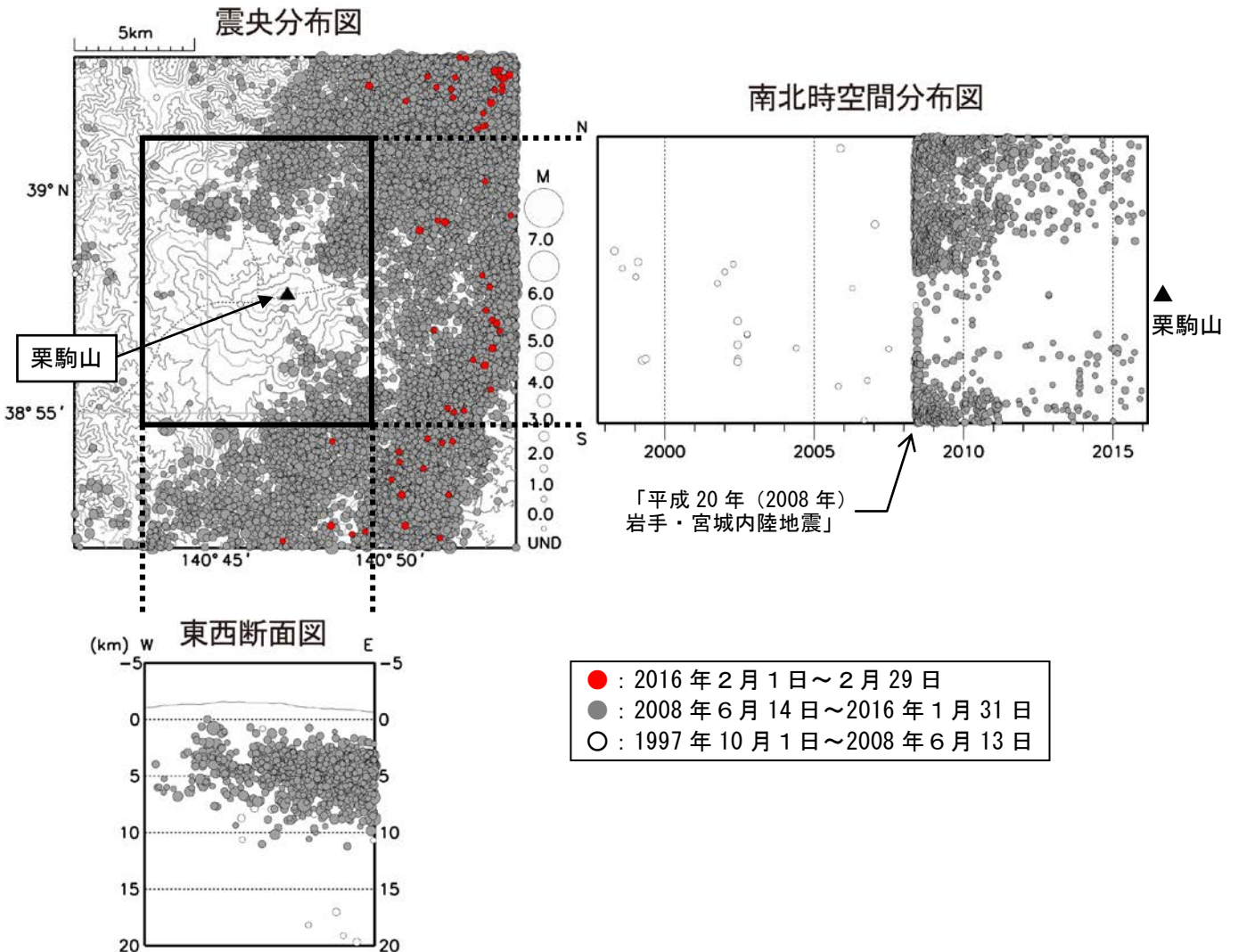


図3 栗駒山 広域地震観測網による栗駒山周辺の地震活動（1997年10月～2016年2月）

- ・2001年10月以降、検知能力が向上しています。
- ・M（マグニチュード）は地震の規模を示します。
- ・図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがあります。

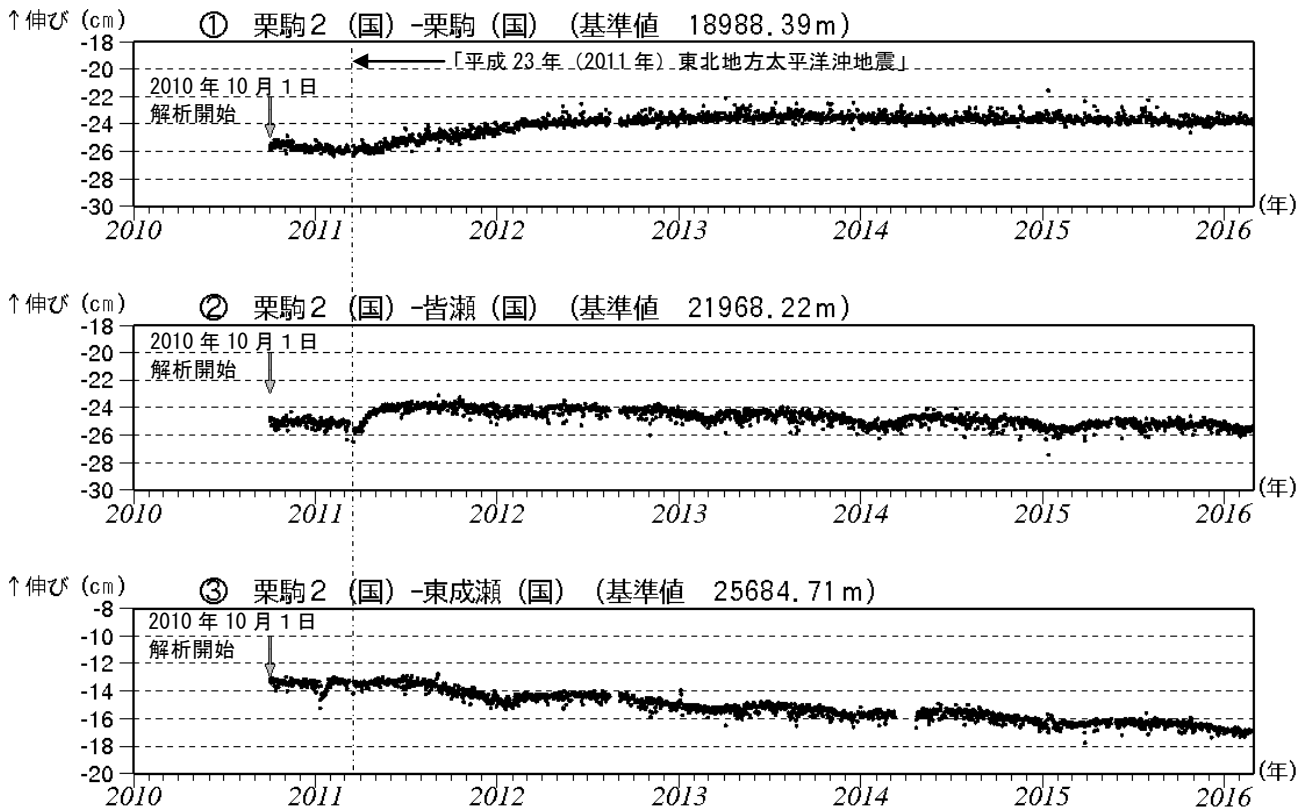


図 4 栗駒山 GNSS<sup>1)</sup> 基線長変化図 (2010 年 10 月～2016 年 2 月)

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

- ・今期間は火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。
- ・2011 年 3 月 11 日以降の変動は、「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」による影響であり、火山活動によるものではないと考えられます。
- ・「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～③は図 6 の GNSS 基線①～③に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。

(国)：国土地理院

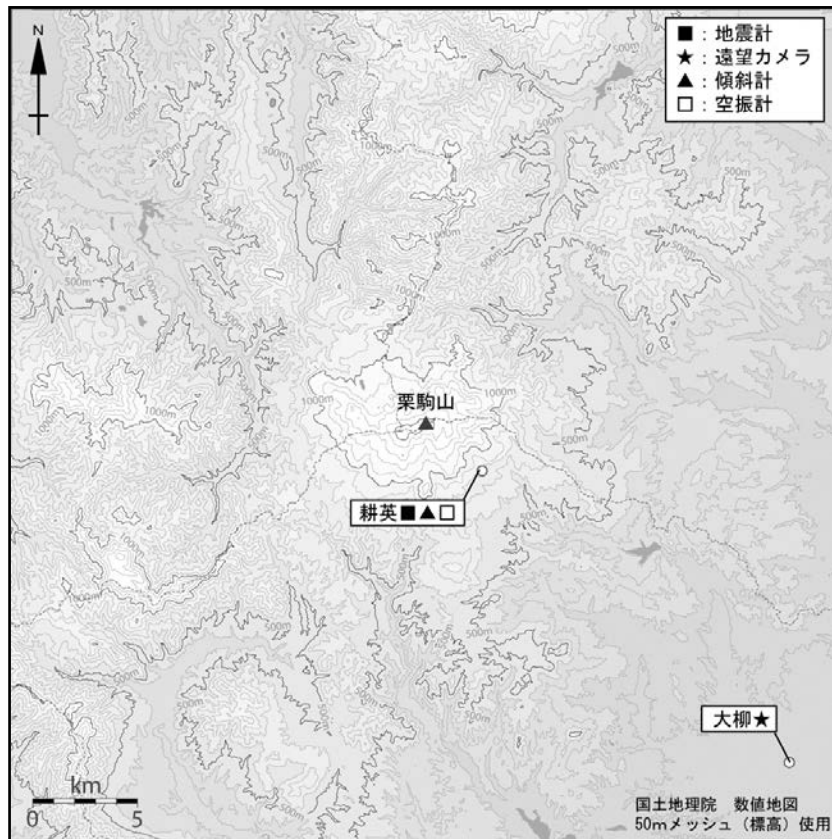


図5 栗駒山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁の観測点位置を示しています。

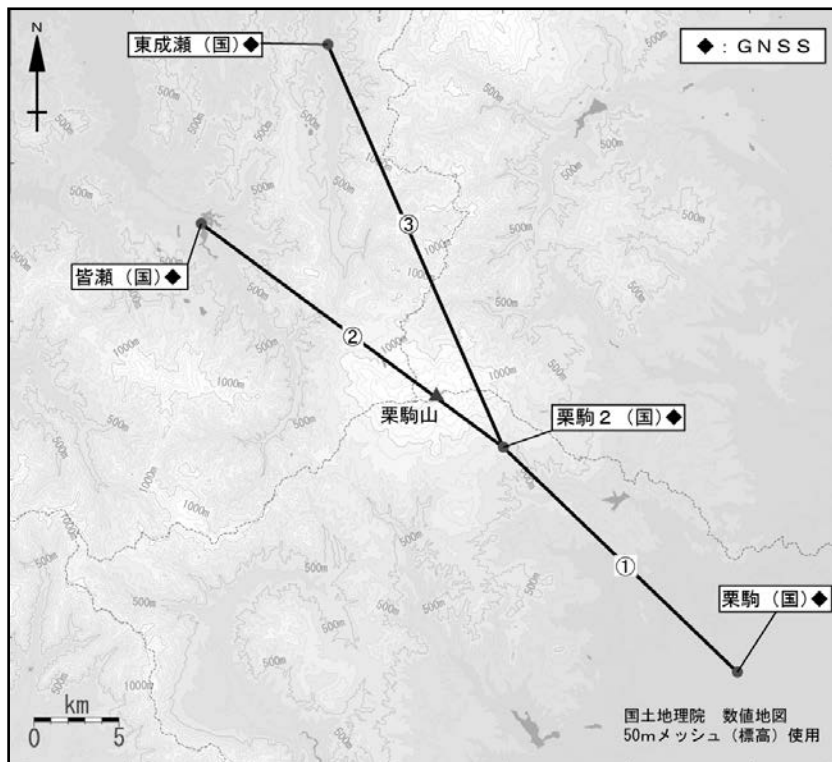


図6 栗駒山 GNSS 観測点配置図

小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国)：国土地理院